



寄贈図書案内



校友会会長 中村日六士氏より
Lafcadio Hearn著

『A history of English literature』
(Hokuseido Press)

原田裕司氏より
原田裕司著

『ラテン語が教えるもの』
(近代文芸社) 他1冊

中元正氏より
樟位正著

『禁じられた海』 (文芸社)

三浦さきえ氏より
三浦久夫作 三浦さきえ編
『三浦久夫作品集』

(三浦さきえ)

佛教大学教授 川野美智子氏より
川野美智子著

『アーサー・ミラーの半世紀』 (英宝社)

森田嘉一総長より
毛沢東著

『毛沢東選集』

(国防工業出版社)

毛沢東[述]

『毛主席語録』

(和外文出版社) 他4冊

英米語学科同窓生 薬師洋行氏より
薬師洋行著

『薬師洋行の世界』

(学研) 他1冊

坂東省次教授より
川成洋, 坂東省次著

『バルセロナ散策』

(行路社)

上記の通り寄贈を受けましたので、ここに紹介し、ご恵贈いただきました皆様に本紙面をかりて厚く御礼申し上げます。

(管理運営課受入係)

ドイツ文学わき道散歩(1)

「ドイツ文学」と聞くと堅苦しい、とっつきにくいというイメージを抱きがちである。確かに哲学の国・ドイツの文学は難解なものも多いが、勿論そればかりがドイツ文学ではない。

読み易いもの、心温まるもの、おもしろおかしいもの等、イメージ外のものも様々である。ドイツ文学を敬遠している人の中には「食わず嫌い」ならぬ「読まず嫌い」な人も少なくないのではなからうか。しかしそれで読まずには勿体ない!ここでは、読めばアツと驚く掘り出し物に出会えるドイツ文学の世界にわき道からご案内したいと思う。

そこで今回はゲーテやシラーといった誰もが知っている大作家ではなく、ドイツ文学の知られざる名作について。地理的・歴史的にドイツとは密接な関係を持つ北欧諸国の文学はドイツ文学とも影響を与え合っているが、アンデルセンがドイツのある小説に影響を受けてかの「人魚姫」を書いたということをご存知だろうか。ロマン主義作家のフケーが書いた「ウンディーネ(水妖記)」は、水の精と騎士が織り成す悲しくも美しい物語なのだが、そのラストにおいて「人魚姫」とは大きく異なっている。中には背筋の凍る思いをする方もおられるだろうが、オペラ化・戯曲化されたこともあってか、この作品に胸を打った人は多い。ところでこの「ウンディーネ」のように身近な人が実は生身の人間ではなかった、という話はドイツ文学にはよくあることなのだが、それはまた別のお話。

1999年度 ドイツ語学科卒業生 小林 ゆかり